

2016年3月期通期決算説明会 質疑応答の要旨

【定期船事業】

Q1 16年度予想に関し、足元の市況はあまり良くないですが、運賃前提の見方を教えてください。

A1 今期の年度契約の運賃水準は足元の市況低迷の影響により下落傾向にあります。低水準の年度契約で収支を固めてしまうのは航路運営上厳しいため、空いたスペースを随時契約貨で埋めていく必要があります。その結果随時契約貨の割合は比較的増え、運賃水準も足元の年度契約の運賃水準より上昇するのではないかと見ております。それでも今期の運賃前提としては、低水準で推移した15年度4Q時の運賃指数がある程度続く水準になると考え、北米航路だと前期比で10%程度、欧州航路で6~7%程度下がる想定で考えております。

【不定期専用船事業】

Q1 今後のドライバルク市況の見方を教えてください。

A1 需給に関しては、残念ながらあまり期待できないと考えています。例えば中国の粗鋼生産はあまり伸びないと予想され、石炭輸出も減少するとの話も聞こえてきており、需要はあまり伸びないと考えております。一方供給に関しては、船の竣工はそれなりにあるものの、スクラップも進んでいくので、ケープ、パナマックス、スモールハンディ船型の供給量はほぼ増えないのではないかと見込んでおり、需給バランスそのものに関しては去年とあまり変わらないと思います。足元の市況も戻りつつあり、今後は多少改善していくのではないかと考えられます。

【その他】

Q1 運賃安定型事業からの利益に関し、今期以降どうなるのか教えてください。

A1 15年度・16年度は大よそ1100億円で推移し、17年度以降は利益を積み増ししていく見込みです。

Q2 今期も構造改革（減損など）を予定しているのでしょうか。

A2 売船、期前返船（傭船解約）については、現在の低マーケットで一時に多額の特別損失を伴うような形での実行は必ずしも得策とは考えておらず、従って現時点では予想にも織り込んでおりません。一方で、減損については、あくまでも会計上のルールに基づいて判定を行うものであり、現時点では必要がないとの判断ですが、これは今後のマーケット次第と考えております。

以上